

四万十町地域公共交通活性化協議会

地域公共交通調査事業(計画策定事業)
事業評価(令和元年度)案 資料3

四万十町の基礎データ

合併状況:平成18年3月に3町村が合併
人口:16,805人(令和2年1月現在)
面積:642.09平方キロメートル

四万十町における主な公共交通概要

○鉄道 JR四国による土讃線、予土線
土佐くろしお鉄道による中村・宿毛線

○バス
(幹線)

(株)四万十交通(旧(有)高南観光自動車)が近隣自治体間、及び窪川駅を起点とし、旧大正町と旧十和村主要施設を経由する路線を民間事業として運行。

- ・窪川ー大野見(中土佐町)
- ・窪川ー佐賀駅(黒潮町)
- ・窪川ー土佐大正駅
- ・土佐大正駅一道の駅とおわ
- ・その他町内各路線

(フィーダー)

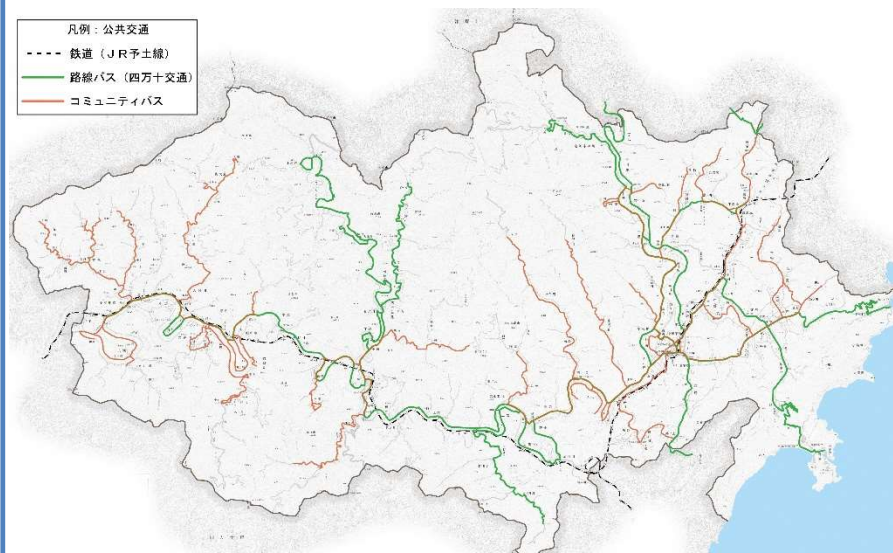
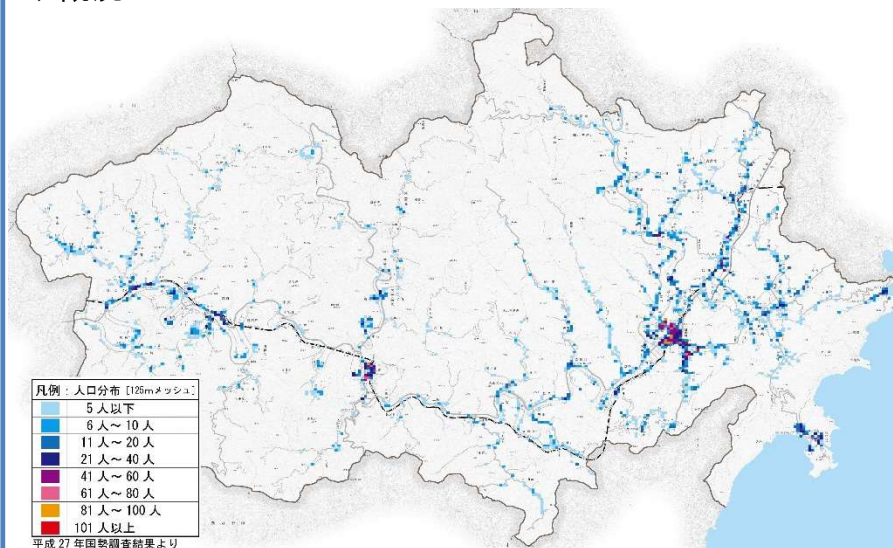
- ・旧窪川町の中心部である窪川駅を起点とし、公共交通空白地域にコミュニティバスを運行(株)四万十交通)
- ・旧大正町の中心部である土佐大正駅を起点とし、公共交通空白地域にコミュニティバスを運行((有)丸三ハイヤー)
- ・旧十和村の中心部である土佐昭和駅を起点とし、公共交通空白地域にコミュニティバスを運行(株)四万十交通)

協議会の構成員

四国運輸局高知運輸支局 四万十町 高知県交通運輸政策課 高知県中山間地域対策課 (株)四万十交通 丸三ハイヤー 十和ハイヤー 四国旅客鉄道株式会社 高知県須崎土木事務所 四万十町事務所 窪川警察署 高知工科大学 くぼかわ病院 住民代表 四万十町国保診療所 しまんと町社会福祉協議会 さわやか四万十 株式会社ハマヤ 四万十町観光協会 四万十町健康福祉課 四万十町教育委員会 四万十町企画課 四万十町企画課 まちづくり推進室

四万十町の公共交通ネットワーク図

◆概況



具体的な課題・問題点、事業の目的・必要性

問題・課題

谷間の集落が多いため不効率な路線配置となり、運行回数の増加が見込めない。公共交通を担う人員が不足している。上記の課題に加え、高齢化に伴いバス停まで行きたくても行けない高齢者が増加傾向にある。そのため、福祉分野の移動支援サービスの需要が高まってきており、公共交通やタクシー事業者の事業圧迫が懸念され衰退(共倒れの懸念)していく可能性が考えられる。現状を把握し共存できる手法(戦略的な計画)の検討が必要不可欠である。

また、本町が負担する交通関連予算合計は約162,000千円に及んでおり、財政負担の軽減を図る意味からも全町における総合的かつ効率的な公共交通体系の構築が緊急の課題となっている。

目的・必要性

1) 町民の移動ニーズと整合した交通網の配置、再編
本町は、これまでに独自の取り組みとして、公共交通空白地区の解消に向けたコミュニティバス路線の配置などを行ってきた。運行開始から8年が経つ路線もあり、当時と地区の状況が変化してきている。

その結果として、生活維持のための移動手段確保策として、全体的な路線配置及び運行ダイヤの再編が求められる。

2) 新しい移動ニーズへの対応

① 福祉的な移動ニーズとの役割分担

乗合をベースとする公共交通を利用できなくなった人への対応策

3) 既存路線バス、鉄道、タクシー事業などの持続のために再編後の路線網を持続させていくため、路線バス、鉄道、タクシー事業、そして新しい福祉的な移動ニーズへの対応策などが役割分担と相互補完できる体制の検討を行う。

また、移動の目的となる取り組みを具体的な事業メニューとして整理することで、移動の目的と移動の手段による連携につなげる。

調査事業の概要

社会的現況調査	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な現況の整理 人口推移の整理、年齢層別人口の将来推計 既存公共交通生網の利用状況整理 人口分布と現況交通網の整合チェック 広域交通網の現況整理
住民ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケート調査(人口バランスをみながら3,500人を対象) 中学生、高校生アンケート調査(町内に通学する全中高生を対象) 地区別意見交換会の開催(可能な限り小集落単位を対象する)
関係機関との協議	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者 町内の量販店、商工会関係者 社会福祉協議会、病院、診療所 四国運輸局、高知県

協議会における検討状況

(1月20日現在)これまでの協議会において、次のとおり協議を行ってきた。

協議会	協議内容
第1回協議会 (4/17)	設立総会として開催
第2回協議会 (6/18)	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会的現況調査項目 ② 住民ニーズ調査方法 ③ 今後のスケジュール等進め方について確認
第3回協議会 (10/21)	各種調査の中間報告及び意見交換
第4回協議会 (1/28)	[予定]素案について協議

事業の状況

■ 社会的現況調査

1. 社会的現況の整理

客観的なデータを元に、本町のすがたを整理した。

- ① 四万十町の位置及び地勢
- ② 人口及び世帯数
- ③ 四万十町の主要施設分布
- ④ 通学及び通勤流動
- ⑤ 消費動向
- ⑥ 自動車の運転
- ⑦ 広域的視点からの四万十町

2. 交通の現況

本町における交通の現況を次の項目で整理した。公共交通の手段ごとに、現状の路線やダイヤ、利用状況などを整理している。

- ① 四万十町の公共交通網
- ② 鉄道
- ③ 路線バス
- ④ コミュニティバス
- ⑤ 高速バス
- ⑥ タクシー
- ⑦ その他の交通網
- ⑧ 公共交通利用者を支える支援制度

■ 住民ニーズ調査・関係機関との協議

住民ニーズを把握・整理するため、次の各調査を実施した。

1. 住民アンケート調査

町内在住者より、18歳以上の3,504人を無作為に抽出して郵送法にて実施。回収数は1,132票で回収率は32.3%であった。

2. 通学に関するアンケート調査

子どもを通学させている親世代の公共交通整備に関する意見、通学に関する意見や要望などを聞くアンケート調査として学校を通じて実施。中学校(全5校)で351票の配布で227票の回収(64.7%)、高校(全2校)で135票の配布で114票の回収(84.4%)となっている。

3. 地区別意見交換会

地区別意見交換会及び要支援者宅を回るフォローアップヒアリングを実施した。特に公共交通空白地区と整理できる地区や、近くを公共交通が運行していても利用しづらい運行ダイヤであるなど、課題のある地区を対象として、住民と直接意見を交換した。全9地区にて実施。

■ 関係機関との協議

交通まちづくりに関係する主体(交通事業者、量販店、病院、観光協会、行政)と協議を行い、本町の交通まちづくりにおける認識や今後の在り方に対する意見などを把握した。



自己評価

事業実施の適切性

広大な面積を持つ本町において、交通に関する情報を一元化整理できている。
また、現状における公共交通の利用者や、利用者にまだなっていないものの近い将来の移動手段確保に不安を持つ高齢者などに対して、直接対話するかたちで意見交換やフォローアップヒアリングを行うなど、すでに次の段階を見越して取り組みを進めている。
当初予定していた各種調査等を終え、計画通り適切に実施しているものとする。

調査結果を受けた計画策定の方針、今後への反映

- ◎ 高齢者の介護予防事業との連携
- ◎ 環境学習による温室効果ガス排出抑制
- ◎ 様々なモードの活用による移動制約者対策
- ◎ 地域での生活を続けられる住宅施策
- ◎ 中心市街地の活性化を目指すコンパクトなまちづくりの推進
- ◎ 中山間地域のコミュニティ機能の再興
- ◎ 移動制約者対策としての公共交通の確保
- ◎ 高齢者の健康づくり
- ◎ 生きがいづくりや社会参加の促進
- ◎ 窪川商店街振興ゾーンは商業、観光の機能性を高め、市街地のにぎわい交流拠点として整備
- ◎ 大正駅前開発ゾーンはにぎわいにつながる駅前の開発・整備を推進
- ◎ 十川駅、土佐昭和駅は高齢者や障がい者等に利用しやすい駅への改修が求められている
- ◎ 十川エリア駅前開発ゾーンは観光客をターゲットとした駅及び駅前の開発等の検討
- ◎ 昭和エリア医療・福祉充実ゾーンは十和地域の住民の医療・福祉の拠点
- ◎ 公共交通機関の利用が困難な人への送迎サービス
- ◎ 移動制約者に対する外出支援制度

今後のスケジュール

- ・第4回 四万十町地域公共交通活性化協議会開催(令和2年1月28日)
- ・パブリックコメントの実施(令和2年2月)
- ・第5回四万十町地域公共交通活性化協議会開催(令和2年3月中)